第６回総会が開かれる

～平和資料室・モニュメント(地・天)の設置に向けて～

〔吉村利男さんの講演〕

第６回総会は、３月１６日（日）に「ジェフリーすずか」で約３０人の参加を得て開かれました。竹内代表からは、会の発足に立ち返りながら、モニュメント（地・天)、平和資料室設置等に向けた現在の取組み状況と今後の活動方針についての説明がありました。加藤代表からは、具体的にモニュメント建立募金の中間報告がありました。議事の質疑も活発に行われ、モニュメントの横に海軍航空基地の位置や規模の分かる説明板が欲しいとの要望をいただきました。早速、工事現場を覗いてきましたが、モニュメントとのバランスを考慮した文面の作成を、除幕記念のイベント内容と併せ急いで検討していく必要性を感じました。当日は、市への近代化遺産の保存・活用への要望を含め、７議案の承認を得て総会は終了しました。

二部の記念講演は、三重県史資料編集委員の吉村利男さんから「鈴鹿市の工場誘致策－市役所公文書をもとに」と題して、講演をいただきました。吉村さんは旭が丘小学校が新採教員の赴任地で、校庭内は何処も硬く、穴が掘れなかった経験から海軍航空基地や格納庫の存在を初めて知ったそうです。本日の講演に何か縁を感じるものがありました。

幾つかの話のなかで、海軍工廠跡地への本田技研工場をはじめ大企業がどのように進出していったのか、市役所の公文書から工場設置奨励条例や具体的な誘致策の説明をいただき、当時の市や市議会の動きも良く分かりました。結びのなかで『公文書館法』の説明ありました。この法律は、公文書を歴史資料として保存し、利用に供することを目的として作られたもので、第３条（責務）では、国・地方公共団体は適切な措置を講ずる責務を有すると謳っています。

歴史資料としての公文書は市内各地に残る旧軍施設（戦争遺跡）とともに郷土の歴史を学ぶ貴重な財産であることを本日の講演から再認識することができました。その公文書を含めた「近代化遺産の保存と活用」策を積極的に取り組んでいただくよう、要望書を市に提出したところです。

長期事業はＩ期５年とよく言われます。市民の会も２期目（６年目）に入りました。これまでの活動実績を踏まえ、会員の皆さんと多くの課題にどう向かい合っていくのか、一つの節目にあたる大切な総会であったことをご報告させていただきます。

(モニュメントのイメージ)

第6回総会あいさつ

〔あいさつをする竹内宏行共同代表〕

月日の流れは速いもので、市民の会を設立して６年目を迎えることになりました。準備段階の１年を入れると丸６年、７年目です。思えば、けっこう大変な道のりでした。鈴鹿は軍都として生まれた市、それを基盤に戦後、平和産業が立地して発展した市。そんな歴史を私自身、よく知らなかったことを恥じ、後世に伝えていかなければと発起人の一人として会を立ち上げ、加藤二三子さんと共同代表をつとめてきました。

NTT 西日本研修センタ跡地に残る３棟の巨大格納庫は一見して分かるまとまった戦争遺跡で、軍都の面影をはっきり残していました。跡地の開発計画がすでにできていましたので、開発を阻止してこれを守ろうというのが、当初からの大きな目標でした。だから、その活用まで考えて「平和利用する市民の会」と名付けたのです。会が発足して１年後、危惧していた開発が着手されました。阻止するため、NNT、市、国、県への働きかけ、市民シンポジウムの開催、そして反対署名運動・・・と嵐のような１年が過ぎました。しかし、闘い空しく結局は取り壊されてしまいました。そこでこの運動を終わらせる選択肢があったかも知れません。けれども、署名活動を通して多くの市民の方々が鈴鹿市の誕生の歴史を知ってくれました。巨大格納庫があったこと、守っていこうという市民の取り組みがあったこと。それを後世に伝えようと、モニュメントの建立を考えました。来年３月には完成し、鈴鹿市に寄贈します。ここでも多くの募金が寄せられました。賛同の多さに驚いています。議事の中で加藤共同代表から中間報告があります。除幕式では意義ある企画イベントを開催したいと思っています。ぜひ参加、協力をいただければと存じます。

そして、後世につなげようと考えたもう一つが、平和資料室の設立です。こちらは残念ながら思うように進展していません。とても自力でできるものではなく、行政の力を借りなければ、実現は難しいからです。そこで、戦争資料を含む近代遺産の、まずは収集、保管施設の確保、将来的にはそれらの展示施設の設立を長期的視野で検討してくれるよう鈴鹿市に要望することにしました。きょうの総会ではそれを提案させていただきます。しっかり議論していただければと存じます。

第二部では、三重県史編集委員の吉村利男さんに講師をお願いして、軍事施設に戦後、平和産業がどういう経緯で立地したか、その歴史を話していただきます。鈴鹿市が７０周年記念で出版した「鈴鹿の記憶―戦中・戦後の証言と資料」に書いておられ、きょうは直接話を聞かせていただきます。（竹内宏行）

〔モニュメントについて報告をする加藤二三子共同代表〕

モニュメント建立募金のご報告

建立募金目標額の修正について

昨年3月、モニュメント建立募金の目標額を立てるに当たって、鈴鹿・亀山の複数の業者に見積もりを取り400万円という目標金額を立て進めてまいりました。その間制作を依頼した彫刻家・三村先生がお忙しい中、業者に交渉しきめ細かく当たってくださった結果、目標額を100万円下げ300万円でまかなえるであろうとの見通しとなり、３月に開かれた総会にて修正案300万円を提案し承認されました。

ご協力ありがとうございます

昨年、第5回総会にてモニュメントの建立が承認され、４月から募金活動を開始しました。会員のみなさまをはじめ市内外から多くの方々の賛同を得て２月現在、鈴鹿市206人、県内43人、県外54人、計延べ人数、個人303人と団体・法人16、の方々から、振込み手数料を差し引いた金額、2,068,170円の募金が集まりました。来年3月の完成予定まであと1年、目標達成にむけ引き続き募金活動を進めてまいりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

総会で地図入り説明板の提案

総会でモニュメントに地図入り説明板を付けたらどうかという貴重な提案があり、世話人会で検討することにしています。

平成26年3月17日

鈴鹿市長　末松則子様

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
（共同代表　加藤二三子・竹内宏行）

鈴鹿市の近代化遺産の保存と活用について　（要望）

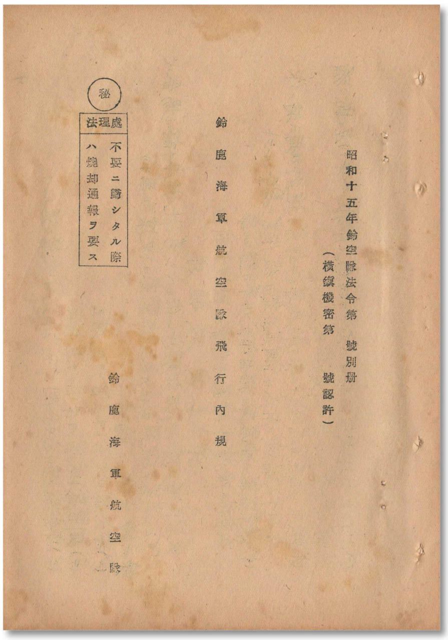
日頃から、私たちの取り組みに深いご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、鈴鹿市が約70年前に軍都として誕生した歴史的背景や非核平和都市を宣言した理念を考えたとき、今も市内各地に残る旧軍施設（戦争遺跡）並びに、立市に関連した公文書（議会史料も含む）はじめ、保管願っている旧海軍格納庫の部材、また個人的に所蔵される戦中・戦後の関連資料は当市の歩んできた証であり、これらの近代化遺産は当市の将来の発展を考えるうえにおいてもかけがえのない大切な財産であると考えます。

しかしながら、時代の流れとともに、市の生い立ちを知らない世代が増えるなかで、貴重な遺跡の消滅や資料の散逸が懸念されるところでもあります。そこで、これらの関連資料の収集と保管場所の確保を急ぐとともに、将来的には資料の展示・公開が可能な施設の設置を検討願いたく、第6回総会（平成26年3月16日）において決議し、ここに要望いたします。

【資料紹介】

鈴鹿海軍航空隊飛行内規



昭和十五年鈴空隊法令第　號別冊

（横鎮機密第　號認許）

鈴鹿海軍航空隊飛行内規

秘

處理法

不要ニ歸シタル際ハ燒却通報ヲ要ス

鈴鹿海軍航空隊

昭和１５（１９４０）年に出された鈴鹿海軍航空隊の訓練生及び教官に対する細部にわたる規則を定めたものである。飛行訓練にあたって訓練生や教官が守るべきことを約８０箇条にわたり、飛行場所、訓練内容、保安、通信などについて記している。

飛行訓練にあたっては、飛行隊長の指揮下のもと、準備物、命令系統、警戒要綱、緊急時の応急措置などこと細かく指示されており、いかに訓練が行われていたかがよくわかる資料である。

おもしろい箇所として、第２８条には「厳守すべき箇所」として①伊勢神宮、②葉山（天皇避難所）、③旧東京市、④豊川海軍工廠、⑤平塚火薬庫の５箇所が明記されており、この航空隊が一般市民を守るべく設置されたのではなく、戦争遂行と国体護持を目的としていたことがよくわかる資料である。

算所空襲爆弾破片

昭和２０（１９４５）年７月２４日、鈴鹿市算所に投下されたアメリカ軍爆弾の破片である。昭和２０年に入ると各地で空襲が激しくなっていったが、最初は東京や大阪、名古屋などの大都市や大規模な軍需工場を目的に投下されていった。６月頃からは地方都市に拡大し、三重県では四日市や津、桑名などで大規模な空襲被害があった。鈴鹿市では２月１５日に神戸地区南、４月７日に鈴鹿海軍航空隊付近、６月２６日に柳駅付近に爆弾が投下され、多数の死者と家屋などに被害がでている。

７月２４日は朝から曇りで、１０時頃、鈴鹿市に空襲警報が鳴った。アメリカ軍爆撃機はいつも、南伊勢方面から連隊でやってきて、鈴鹿市は素通りで名古屋方面に向かうことが多かった。この日も空襲警報は鳴ったが、算所４２軒の人々は一旦、防空壕に避難するも、何もなく、外に出て、農作業などにむかった。しかし１０時３５分頃、爆音と共にＢ２９爆撃機が突如この算所の集落に爆弾を投下した。１００ポンド（約４５ kg）爆弾が４５発投下された。投下地点付近にいた者は即死、爆弾破片は半径１００ｍにわたり飛ばされたといわれ、破片が目に刺さった人もいた。負傷者は近くの鈴鹿海軍工廠共済病院に運ばれたが、即死者も多く、死者１９名、重軽傷者３８名（後に５名死亡）、全壊家屋３０戸で鈴鹿市最大の被害を出した空襲であった。

算所の西には鈴鹿市最大の軍施設・鈴鹿海軍工廠があり、この工場を狙ったものが東に外れたとの見方があるが、距離があり、真相は不明である。

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代　表　加藤二三子、竹内宏行

〒510-0254 鈴鹿市寺家１－２－４７

電　話　　０５９－３８８－６５０８

メール　　ta818hi@mecha.ne.jp

ＨＰ　　http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm